

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立城西中学校
1 前年度 評価結果の概要	・本年度の学校目標に関する学校アンケートの結果は、昨年度より若干低下しており広報不足が感じられる。今後は地域行事や学校便り、学校HP等での情報発信の頻度を高めていく。 ・職員の生徒への指導・支援もあるが、日常の取組の中で、学力向上や生徒の活動、部活動等の活性化、意欲が高まるなどの成果を得ることができた。 ・今年度は研究2年目にあたり、人権同和教育実践交流会と併せて公開授業研究会を行った。今後も生徒の実態に応じた研究を進め、成果を上げていくよう努力していくこととしている。 ・次年度への課題としては、今年度重点的に掲げてきた3つの課題の解決に向け、取組の継続及び進化を図る必要がある。一つ目は『自律した学習者』を育成する授業づくりと学力向上の推進、二つ目は『開発的生徒指導』の手法を用いた、自己肯定感・自己存在感の育成、三つ目は教師自身が明るい未来を語り、『生徒の志を高める教育』の推進である。
2 学校教育目標	さわやか挨拶 響く歌声 楽しく学ぶ生徒の育成
3 本年度の重点目標	・校内研究を通して、主体的に学ぶ生徒を育成する。 ・職員みんなで、生徒指導にあたる。 ・生徒の良さを伸ばすことで自己肯定感を高め、規範意識や判断力を育成する。

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価			
(1)共通評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した生徒80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえた授業実践を行う。豊かな対話の場面を設定し、生徒に考える楽しさや分かる喜びを実感させる授業作りを推進する。	B	・各教科での課題解決率は、職員の意識調査で94%、生徒の意識調査で88%となり、おおむね目標を達成しているが、「豊かな対話」を設定した授業の具体的な手立てについては、さらに研究を深め、生徒に明確に示していく必要がある。	A	・全職員が関わり、生徒に考える楽しさや分かる喜びを実感させようとする、わかりやすい授業を展開する取り組みはすばらしい。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートを実施する。	B	・人権について学習する行事や人権を尊重する授業づくりに対する意識調査の生徒評価は肯定的意見が92%となり、目標を達成している。	A	・各教科で対話の場面を設定した授業をされ、生徒が考える授業を行われている。地域連携型公開授業を実施され、生徒の学習を参観できたのはよかった。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ重大事件0件	・早期発見、早期対応に努め、人権意識を高める取組を組織として実践する。	A	・1月までのいじめ認知件数は33件と、昨年度よりかなり増加したが、積極的認知を心がけ、早期発見、早期対応を行った結果、すべてにおいて解決につながり、重大事態には至っていない。	A	・いじめの重大事態はなく、対応はできている。
	◎●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎●自らの夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成(学校行事や各種活動後の振り返りで、努力する意欲が向上したと回答した割合80%以上)	・めざす学校像をもとにした各教科や学校行事等を通して、自分の夢や目標について考えさせる時間や場面の設定する。	A	・生徒の授業の振り返りや学校行事の感想に、活動に前向きに取り組む、意欲をもって楽しく学ぶことができた等の肯定的な記述が多かった。	A	・いじめを認知してから迅速に対応されており、不登校の生徒にも出来る限りの向き合い方を実践されている様子が見えるので、重大事態とならないように継続して取り組んでいただければと思う。
		●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上	・各教科や学校行事での全員が役割を持つことで、意欲の向上に繋げる。学校教育目標である、「さわやか挨拶響く歌声楽しく学ぶ生徒の育成」を意識した学校行事作りを意識する。	A	・「自己肯定感・自己有用感を味わわせることができた。」	A	・生徒が生命を尊重する豊かな心などを身に付ける教育をされ、互いに認め合う生徒が増加していることで今後の展開に期待する。
	○人権・同和教育の充実	○人権について学習する行事や授業作りにも努めていると回答する教師90%。	・人権について学習する行事と授業作りを推進する。	B	・人権について学習する行事や授業作りにも努めていると回答した教師は100%、生徒の意識調査では92%が肯定的な回答をしている。	B	・人権を意欲した行事や授業作りにも努められており、中間評価のコメントにあるような今後の課題など伸びしろがあるテーマだと思うので、今後も継続され、より浸透することが出来る様に取り組んでいただければと思う。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○健康・安全への意識の向上。(向上したと回答した割合80%以上)	・健康診断やスポーツテスト結果に基づいた個別の指導・支援を行う。	A	・保健体育の授業等で、自らの心身の発達状況を確認し、日常生活をよりよく送るための指導・支援を継続して行っている。	A	・生徒自身が自分の成長度合いを認識し日常生活で改善できるように気づき、健康な体づくりを意識した自己管理能力を身に付けさせることで健康な体づくりの教育を実践されていると思う。
		○学齢期や発達段階に応じた健康で安全な生活や自らの体力向上の実践。(実践したと回答した割合80%以上)	・生徒及び保護者向けに健康に関する情報発信を行う。(保健便り等の活用)	A	・「朝食を食べている」生徒は、92%で目標を達成している。	A	・朝食は概ね達成しているが、家庭でもしっかり朝食をとるように工夫して欲しい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限の遵守	・定時退勤日の設定	B	・校時の見直し等で、退勤時間は少しずつ早くなっている。学校閉庁日については、国スボ等の役員委嘱のない職員については完全に取得することができている。	B	・業務効率化の推進や時間外在校時間の削減に取り組まれており、学校閉庁日は殆どの職員が休養を取得されており一定の成果がでているようなので、定時退勤日を設定した日などに全職員が定時退勤できるように工夫して取り組んでいただければと思う。
	○部活動などの各種活動における意識改革と活動の精選	○部活動などの各種活動での時間や内容の再確認、精選などで「部活動基本方針」の遵守	・部活動など、各種活の内容の見直しや、効果的な活動内容を検討し、長時間の活動がないように実践する。	A	・部活動の基本方針に基づいた活動、休養を心がけ、また地域移行の実証事業にも取り組むことで、顧問等の余裕が生まれている。	A	・「部活動基本方針」に基づいて実施されているとのこと、意識して活動ができているからこそ成果がでているようなので、今後もより改善出来る様に継続していただければと思う。
●特別支援教育の充実	○配慮を要する生徒の教育ニーズに応じた指導・支援の充実	○生徒が安全で安心して学校生活を送ることができる、教育ニーズを把握した指導支援	・特別支援教育に関する研修会を実施する。	B	・特別支援教育に関する研修会を実施し、課題の共有を行うことができた。	B	・生徒が安全で安心して学校生活を送れるように指導支援を目指し、研修会を実施して課題を共有されているとのことなので、今後は具体的な対応ができるところまで継続して取り組んでいただければと思う。
			・ケース会議の開催、関係者間での情報共有の充実を図る。	B	・ケース会議を開催し、情報共有を行うことができたが、事案毎に具体的な対応を検討するまでに至っていないため、実施の頻度を上げていく必要がある。	B	・通常学級と特別支援学級の担任同士でのコミュニケーションが日々できにくいところがあるかもしれないので、研修会やケース会議をなるべく実施して教育の充実につなげるというと思う。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○開かれた学校づくり	○地域と連携した社会性豊かな生徒の育成	○学校外でもさわやかな挨拶ができ、地域を愛し地域に愛される、地域に貢献する姿勢を持った生徒の育成	・開発的生徒指導の考え方を生かし、生徒の責任感や自信を育てる。	B	・毎週の各種部会で情報交換と指導・支援体制の共通理解を図ることで、開発的生徒指導の手法による指導・支援が実践できた。	A	・地域行事への参加やボランティア活動を通して、生徒個々の自発的意識が育っているように感じるので、これからも社会性豊かな生徒が育つようにしていただければと思う。
	○学校情報の積極的発信。(学校HPでの情報発信を月1回以上)	○学校情報の積極的発信。(学校HPでの情報発信を月1回以上)	・共感的、自己肯定感、自己肯定感を意識した生徒指導の充実を図る。	B	・地域行事やボランティア活動への参加が生徒の承認の場となっているので、さらに多くの生徒が意欲的に参加できるような体制づくりを行う必要がある。	A	・地域ボランティアとして参加する生徒と交流することが多くなり、生徒はやりとげた達成感と認められたことで社会性が高まるので素晴らしいと思う。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学校教育目標に関する学校アンケートの結果は、今年度から学校教育目標が変わったことを考えると、浸透していることが窺える結果だった。今後は地域行事や学校便り、学校HP等での情報発信の頻度をさらに高めていく。 ・職員の生徒への指導・支援もあるが、日常の取組の中で、学力向上や生徒の活動、部活動等の活性化、意欲が高まるなどの成果を得ることができた。 ・今年度は研究1年目にあたるが、コミュニティスクールのスタートにもあたるため、地域連携型公開授業を開催し、地域の方々にも研究の成果や授業の公開を行った。今後も生徒の実態に応じた研究を進め、成果を上げていくよう努力していくこととしている。 ・次年度への課題としては、今年度重点的に掲げてきた3つの課題の解決に向け、取組の継続及び進化を図る必要がある。一つ目は『豊かな対話』を位置づけた授業づくりと学力向上の推進、二つ目は『開発的生徒指導』の手法を用いた、自己肯定感・自己存在感の育成、三つ目は教師自身が明るい未来を語り、『生徒の志を高める教育』の推進である。
----------------	--